

令和2年度厚狭地域スポーツフェスタ報告

「日本再発見～切り絵とジオツアー」

11月7日(土)、10時から美祢市美東センターで、「厚狭地域スポーツフェスタ」が始まりました。3回目となるこのイベントについては、むぎかわ元気クラブ(真瀬邦夫会長)を主幹クラブとして開催され、111人の参加者で行われました。コロナ禍の中、参加人数については気を遣うところでしたが、会場の広さ、バスでの移動、ガイドツアーの人数などのバランスをうまくとることができ、運営面でも大成功であったと言えます。

このスポーツフェスタについては、6月に協議会をスタートさせたものの、できる限り少ない回数での実行委員会としましたが、昨年度までの実績を活かし、当日の動きなどに戸惑がなく、それぞれの役割を着実に果たせたことも3年目の強みだと感じました。

プログラム

10:00 開会

10:15 講演会 講師:切り絵画家 久保修氏

11:30 昼食(銘水ごぼう茶飲み比べコーナー)

12:20 バス移動(大型2台・マイクロ2台)

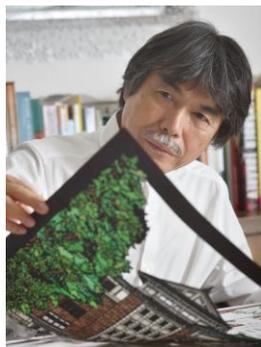
12:40 前半グループ⇒ジオツアーの後、秋芳洞内散策
後半グループ⇒秋芳洞内散策の後、ジオツアー

14:50 バス移動(秋吉バスセンター～美東センター) 解散

スポーツフェスタは、「講演会」と「ジオツアー」の2部構成でした。

○講演「切り絵作家の半生～運命を変えた人との出会い～」

○講師 切り絵作家 久保 修(美祢市出身・東京在住)



美祢市出身の切り絵作家久保修さんから、「人との出会い」をテーマに講演していただきました。

【概要】

まずは、若いころのご自身が切り絵の世界に入りたいきさつを語られました。切り絵の魅力にとらわれているときに、作家の小松左京さんに認められたのが最初の出会いだったとのこと。その後も財界人や著名な作家の

人と出会い、海外での出会いのことを話されました。何かをやり続けていると人との出会いがあり、久保さんの場合、作品が自分を助けてくれたとのこと。自分がやりたいことをやり続けることを認めていただいた両親への思いを大切に、チャンスを見逃さずチャレンジされた久保さんのこれまでの生き方に深い感銘をいだかれた人が多く見られた時間でした。

参加者からは、「美祢市の誇りです」「大阪にある久保修切り絵ミュージアムに行って、あの超大作を実際に見てみたい」などの感想が寄せられました。久保さんのユーモアあふれるお話と優しい人柄にふれ、古希を目の前にして、なおも制作意欲に燃えておられる久保さんのファンがますます増えたように思えました。

午後からは、参加者が8班に分かれ、秋吉台ジオツアーと秋芳洞内散策の2つのプログラムを体験しました。4人のジオガイドによる秋吉台の地形・歴史や山焼きの裏話など、約1時間、すすきの小道を歩きながらのガイドに、改めてカルスト台地の面白さを堪能できたようです。とりわけ、すべてのグループに美祢市スポーツ推進委員が引率し、心強い存在となりました。あいにくの霧雨でしたが、日ごろの運動不足解消になったという感想やガイドの説明がおもしろくて新しい発見があったなどの感想がありました。



わくわく(輪く和く)通信

山口県生涯スポーツ推進センターだより

Vol.37

2020年

12月

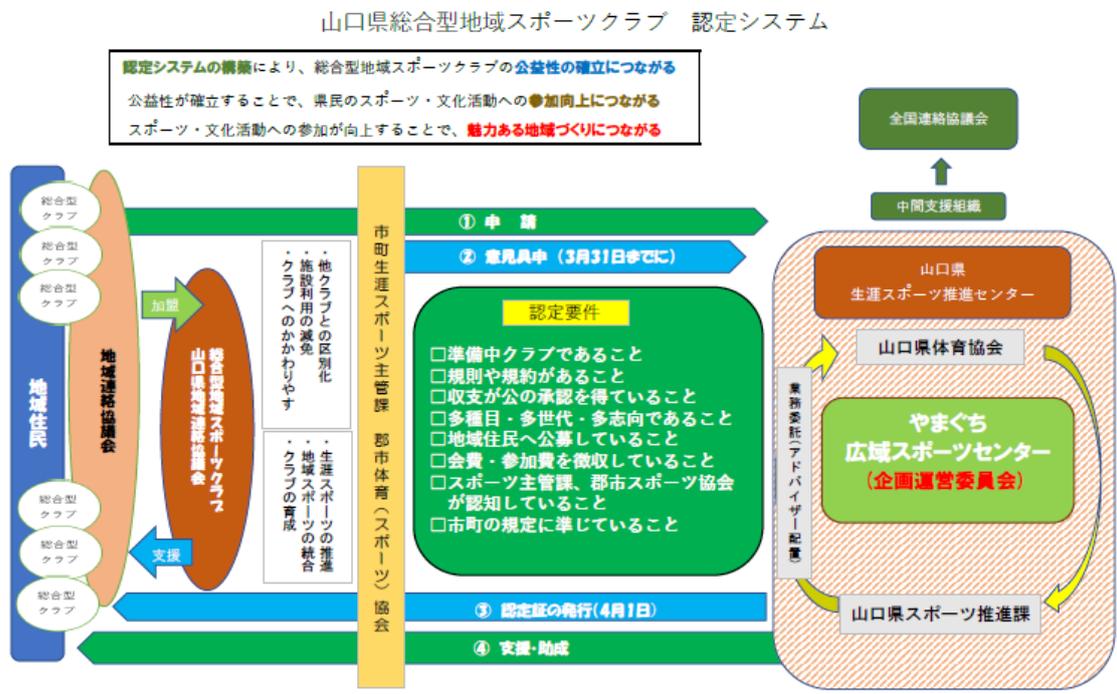
スポーツクリ
LOLO BIG

山口県版認定システムの策定

令和4年度から、総合型地域スポーツクラブ全国協議会では、「登録・認証制度」が始まります。主なねらいとして、総合型クラブの社会的認知度の向上(信頼度・安心度)、行政における総合型クラブへの理解促進(活動場所の確保・施設の減免・広報機会の拡大・他の部局との共有など)、ガバナンスの確立(加入基準の統一・組織運営者に係る権利と義務の明確化)、新たな地域スポーツ体制の構築(スポーツ少年団・公認スポーツ指導者等との統合)があげられています。

山口県では、すでにほとんどのクラブには総合型地域スポーツクラブ山口県連絡協議会に加盟し、年間 3,000 円の会費を納入していただいていることから、まずは、すでに総合型スポーツクラブとして設立しているクラブを認定することが必要であるとの気運が高まりました。クラブ関係者から、「クラブのステイタスを高めるためにも、公的な認定証がほしい」「クラブとしても、認定証にふさわしい公益性のある活動につながる」「クラブ関係者の長年の努力により、市町から委託を受けた事業を展開できるようになったクラブもあるが、認定証があることで、もっとスムーズに信頼をえることができる」などの声が上がります。市町行政担当者からは、認定証があることで、他のスポーツクラブやサークルと区別でき、補助金の使用について説明できるとの要望があり、この度、山口県版認定システムを広域スポーツセンターとして提案し、山口県連絡協議会理事会との協議の後、企画運営委員会で承認を得て、システムを構築することができました。

基本的には、既存のクラブは、すべて認定します。準備中クラブ、これから立ち上げようとするクラブについては、認定要件をクリアすべく、複数回の準備委員会の開催を求めています。認定証があることで、前述の利点に加え、地域の実情に応じて、施設の減免や地域での立ち位置の変化などが期待されるものと考えています。



来年度からの開始に向けて、市町行政担当者・各クラブの皆様へ、ていねいに説明しながら、山口県版認定システムを進めていきたいと考えています。手続きは、簡単にしています。該当年度の総会資料を添付し、クラブデータを記入する程度とし、クラブ事務局の負担が軽くなるようにしています。

詳しくは、創設育成研修会で説明しますので、各クラブからのご参加をお待ちしています。2日間に分けて行いますが、内容は一緒です。いずれかの研修会にご参加ください。

- 2月5日(金) 13:30~16:00 山口市:カリエンテ山口
- 2月6日(土) 13:30~16:00 下松市:ほしらんどくだまつ

人がつながる 人でつながる 人がつくる



地域に根ざしたクラブの経営や活動を支えるのは人… このコーナーでは、コーディネーターがインタビューをして、総合型地域スポーツクラブにかかわる人を紹介していきます。

特定非営利活動法人 おもしろファーム 副理事長 河杉富美雄氏

今回は、宇部市で平成16年に設立された「おもしろファーム」の副理事長河杉富美雄さんにお話を伺いました。

コロナ禍の中で活動はいかがですか？

おもしろファームは、とにかくおもしろいことをやろうというよびかけで活動してきました。最近ストライダー（足で蹴って前に進む、STRIDER（ストライダー）キッズランニングバイク）を中心に7年間、14回開催してきました。例年であれば、100人も幼児が集まり、会場の常盤公園で大歓声が沸き起こるところですが、今年は、コロナの関係で、春の大会も秋の大会も中止となりました。来年の春の大会についても未定などありますが、「人が集まりにぎわいを作りたい」との思いは強くもっています。

おもしろファームの方向性は？

会員は50人程度ですので、全盛期に比べると約半数になっています。同時に運営資金についても不足しがちです。以前は、テレビに登場された脳トレの第1人者をお呼びしたり、高校の先生に科学実験教室を開催していただいたりしていたのですが、今のところ、ストライダーだけになっています。会員からのアイデアを募集して、おもしろいことをやろうという気持ちはずっと持ち続けています。



河杉さんのモットーはなんですか？

「陽気・元気・前向き」の「3つのき」を大切にしています。この気持ちは、仕事でもプライベートでも同様にもつようにしています。若いころからやっていたテニスも最近ではできていません。せいぜいウォーキングぐらいでしょうか。この新型コロナによる様々なことは、本職である経営コンサルタントの仕事にも影響しています。とりわけ、本会の趣旨に賛同した若者たちが集まっていただけの利点を生かして、クラブづくりもまちづくりも一所懸命にやっていきたいのです。

とにかく元気な河杉さんでした。どんなおもしろいことが出てくるのか・・・楽しみです。

ほんごう維新クラブ 会長 森田稔子氏・事務局 山崎勝江氏

雪が降る寒い日、「ほんごう維新クラブ」の会長森田氏と事務局山崎氏にお話を伺いました。ほんごう維新クラブは、設立して12年目です。

本郷町ってどんなところですか？

岩国市街から約60分、大竹市街から約40分に位置し、地域全体が山々に囲まれた緑豊かなところです。中心地から10km北には、標高1109メートルの羅漢山がそびえています。らんかん高原には、キャンプ場が整備されており、夏にはキャンプをする人でにぎわっています。都会の子どもを受け入れる本郷村山村留学センターという施設があり、現在12名が寮生活をしながら地元の小中学校へ通っています。この子どもたちは、ほんごう維新クラブの会員で、ミニバスケットやソフトボールをしています。



森田氏

山崎氏

クラブに携わっていることで嬉しいことはありますか？

町内に住んでいても知らない人が多くいましたが、クラブに関わることで、たくさんの方と出会うことができている。また、会員の方から、「ありがとう」や「また大会開催してね！」などの声をいただくことは本当に嬉しく思います。少人数では運営が難しい大会では、地域のみなさんの力もお借りして運営をしており、クラブ側も感謝することが多くあります。

また、クラブを設立して感じていることは、田舎には、市内にあるような民間スポーツクラブは少ないので、地域の人が気軽に参加でき、みなさんの楽しみの場となっている総合型クラブはすごくいいものだと感じています。

クラブの指導者に恵まれているようですね。

はい。指導をしたいと自ら手を挙げる方が多く、また、ボランティアで指導をしてくださっていますので、有難いことに指導者には恵まれていると思います。本郷町はスポーツが盛んな地域であったので、その名残が今でもあるのかもしれませんが。来年度には、新規にポッチャ教室を立ち上げる予定です。

お二人の明るさやパワーはクラブに元気をもたらすと感じました！

総合型地域スポーツクラブ 訪問日記

クラブ名	イベント名	訪問日	訪問者
山口県 女性とスポーツの会	「第7回スポーツの絆 WO MAN 和ークル」	11月3日(火・祝)	和田 康夫

11月3日(火)の午後から、カリエンテ山口で、山口県女性とスポーツの会によるオンライン研修会が開かれました。10月17日(土)には、プレオンライン研修会を行い、準備を進めながらの研修会でしたが、初めての試みにとまどいも多くあったようです。この日は、順天堂大学女性スポーツ研究センターの三倉茜先生に「私とスポーツ」という演題で、幼いころのスポーツとの出会い、それからスポーツを学びたいとの思いが強くなった大学生時代などを通して、女性とスポーツに関する研究の一端を紹介していただきました。

スポーツの歴史的背景として「男性中心として生まれた近代スポーツは「早く・高く・強く」という特徴からもわかるように、男性に有利な種目が選ばれている」こと、社会的背景として、「女性の就労率は上がっているが、家事・育児に関する負担は依然として女性が担っている」こと、環境面として、「学校生活や体育の授業の中には、多くのジェンダー規範が隠されている。(体育の種目はほとんど近代種目・男子が騎馬戦、女子はダンス・コーチや指導者は男性が多い)」ことなどの例を挙げられ、これからのスポーツは、スポーツが男性だけのものではなく、異なる性質をもっている人が新しく文化に加わる大切さやダイバーシティ(多様性)への気づきのために、女性の参加がきっかけになれば・・・と語られました。



お家でできる ACP の紹介

講演の後は、女性とスポーツの会の実行委員のみなさんが、「お家でできる ACP」と題して、紙鉄砲や紙フリスビーでの遊び方や体幹を育てる鶴のポーズなどを紹介していました。この会の廣川恵子会長は、これからのスポーツと女性を考えることは、スポーツの新しい見方や関わり方につながるはずとの思いを三倉先生の話聞いてますます強く抱かれたようです。次回、第8回は、1月16日(土)に予定していましたが、コロナの影響で中止となりました。

クラブ名	イベント名	訪問日	訪問者
ダンスうんどう山口	ACPとイキイキリズムで ★チャチャチャ★	11月28日(土)	和田 康夫



3世代で楽しんだ ACP

スポーツ庁の国庫補助事業であるACPを活用した運動遊び促進事業を受託し、11月28日(土)、サンウイング熊毛を会場に、「ACPとイキイキリズムで★チャチャチャ★」というイベントが実施されましたので、視察しました。代表の中谷秀明さんは、「ダンスうんどう山口」というクラブとして、3年前から総合型クラブの準備を進めていますが、これまで、社交ダンスという分野での活動が多く、会員の大幅な増加が見込めない状況が続いています。「この度、ACP活用事業を実施する機会に出会い、多世代での運動がむしろ好ましい場合があることを改めて確認できたことは大きな収穫です。」と中谷さんがお話してくださいました。

参加者は54人、高齢者・子育て世代・子どもたちの3世代が集まり、コロナ禍における運動不足の課題解決のためにACPをヒントとして、地域や家庭での運動習慣化を図ってほしいとお話の後、ACPが始まりました。遊びながらおもわず体を動かしている姿がたくさん見られました。続いて、ダンスうんどう塾の小林英夫氏と中村ひとみ氏の指導で、リズムに合わせたうんどう遊びを紹介していただきました。リズムカルにケンパ体操をしたり、講師が振り付けをした「がさエビ音頭」を踊ったりと、たくさんのプログラムで体をしっかり動かし、参加されたみなさんの笑顔をいっぱい見ることができました。アンケートでは、「継続して開催してほしい」との声が寄せられており、会員増加につながりそうな予感がしました。



講師、小林先生の楽しいトークも

【生涯スポーツ推進センター問い合わせ先】

中央生涯スポーツ推進センター(山口県体育協会)

TEL 083-933-4697

FAX 083-933-4699